

海外インターンシッププログラム

派遣国・都市名	オーストラリア 西オーストラリア州 パース市
研修先	西オーストラリア州・兵庫文化交流センター
プログラム実習期間	2014年8月21日～9月2日
学部/研究科・学年	海事科学部 4年

インターンシップ就業実習 報告書

2014年8月12日～9月2日、西オーストラリア州兵庫文化交流センターにおいて、インターンシップで行った就業実習について以下に報告する。

○事務

- ・兵庫センターにおける各種セミナーの準備、片付け
- ・図書の貸し出し業務

○スクールビジット

校外学習としてセンターを訪れる州内小中学校の生徒に対して、兵庫県の紹介や日本文化（日本の遊び、折り紙、書道など）、簡単な日本語学習などの体験学習プログラムを提供。

訪問校

- ・ John XXII (Year 6) 生徒 31人
- ・ John XXII (Year 3) 生徒 60人
- ・ Notre Dame PS (Year 3) 生徒 61人

○チャターボックス

- ・日本語と英語による交流、学習、情報交換の場を提供
- ・現地オーストラリア人との交流

○県立大学付属高校・中学校による生徒プログラムへの支援

- ・当文化センターの業務の説明
- ・当生徒との交流

○ロッキングハム高校（県立宝塚北高校と教育交流提携）の視察

- ・海事関連（船員、スキューバダイビング、ライフセーバ、）の教育
- ・授業、施設見学
- ・教育指導者の聞き取り調査

○ワークショップ「Hyogo Matsuri Work Shop」

- ・ビラの準備、配布
- ・プレゼンテーションの作成、発表

- ・フード（そばめし、たこせんべい）の企画、調理
- ・茶道のお点前披露、お茶点で体験および抹茶のテイスティング
- ・ヨーヨー釣り
- ・参加者全員で行う盆踊り（炭坑節）の練習、実施

感想および意見

まず、全体を通して振り返ってみると、西オーストラリア州兵庫文化交流センターにて行われた3週間の職業実習は本当に短い期間に感じた。それだけ毎日が充実していて、新しいことにチャレンジできた。スクールビジット、高校の視察及びワークショップは自分にとって大変貴重な経験になった。また、ホームステイをすることで現地の文化、食事及び考え方を学ぶことができた。これらの経験について感じた素直な感想や意見を述べたい。

スクールビジットでは、地元小中学校の生徒に日本語を教え、日本文化を体験してもらった。特に、習字の体験では、持ち方、書順などの基本的な書き方を教えるのに苦労した。多いときでは60人を超える生徒になり、指導するスタッフが2人の時は忙しい業務になった。最初は、生徒一人ひとりについて指導を試みたが、それではカバーできなかった。また、生徒の一部は関係のない遊びをすることもあり、集団を取りまとめることの指導方法について学ぶことができた。海外の子供と接してみたかったため、楽しい経験となった。海外の教育について興味がある、教育者として就職を考えている学生にとってはこのインターンシップに参加することで有意義な経験になると思う。

高校の視察では、海事関連の教育システムを知ることができた。私が海事科学部に所属しているため、特別にパース事務所が当機会を与えてくださった。インターンシップ生として与えられた仕事をするだけでなく、自分で興味のあることや事前に調べてきてインターンシップ中にやってみたいことをチャレンジできるのはこのインターンシップの良いところだと思う。

ワークショップはこのインターンシップで最も大きなイベントとなった。私たちは「祭り」をテーマにして日本や兵庫県の祭りを紹介し、海外の方に祭りを体験してもらうことが狙いであった。当日は60人以上の参加者となった。順序としては祭りに関するプレゼンテーションを行い、その後、神社や寺の祭りに行われる茶道のお点前を披露した。屋台でよく見かけるそばめしやたこせんべいの提供、ヨーヨー釣りを体験してもらった。最後には参加者全員で盆踊りをした。ワークショップが終わった後、参加者から「ありがとう」の一言が非常に嬉しかった。それだけ、準備にかけた時間が多く、インターンシップの醍醐味であっただけに緊張していた。プレゼンテーションの練習やその他の準備を早い段階で計画して取り組んでいたため、成功に繋がったと思う。

ホームステイは初めての経験であったが、ホストファミリーはフレンドリーで、英語の能力がない私でも親切に接して頂いた。ホームステイ先がビーチの近くにあったことから、仕事を終えた後、夕日を見ることができた。西オーストラリアの海は非常に美しく、街がきれいで、そんな自然の中で生活できたことが良かった。また、週末にはホストファミリーと自転車で出掛けたりした。就業実習がメインとなるものの、就業実習以外の時間をどう過ごすかがこのインターンシップを充実なものにするか関係する。その時間をホストフ

ファミリーと過ごすことで有意義な生活を送ることができたと実感している。

最後に、自分の英語の能力不足を実感した。日本の文化を伝えることの難しさや英語の表現方法に困った。茶道の作法を説明する際、一つ一つの動作が簡単な英語であるにもかかわらず、口から出て来なかった。専門分野として使用する英語を事前に調べておく必要があった。海外インターンシップで英語の能力を上げようと考えずに、英語を活かそうと考えた方が良い。大学生の夏休みに海外インターンシップに参加したことで、今後の進路の選定や自分の考え方に大きく影響を与えるものとなったと思う。今回の海外インターンシップを支援して頂いた神戸大学国際部留学生課、受け入れてくださった兵庫県国際交流協会及びパース事務所の所長をはじめスタッフの方々に深く感謝したい。

